りんご情報　No.１６

令和６年１２月２６日発行

ＪＡグリーン長野営農販売部・経済部

◆当面する重点作業について

１．ネズミ対策の実施を行う。
　降雪前の時期は効果が高いので「ヤソヂオン」を使用し、ネズミの数を減らす。
２．雪害対策として発生角度の狭い枝や折れやすい枝には、支柱をあてがうなど補強を行う。
３．凍害対策としてワラまき・白塗剤の塗布などを行う。特にわい性樹の若木。
４．園内を巡回し、腐らん病の早期発見、早期治療に努める。
　再発が多いので今までに処理した部分も再度点検する。
　春に発生が多く、凍害で弱った樹も多いので感染しやすくなっている。
５．剪定作業では脚立はすべりやすいので、足場をしっかりと踏んで固定してから作業を行う。
６．癒合促進・腐らん病等防止のため、剪定の切り口は必ず塗布剤を塗布する（トップジンMペーストなど）
７．うどんこ病の芽を除去する。

◆凍害対策について

わい化栽培（特にＭ９自根樹）では、Ｍ９台木部分が凍害を受けやすい。
ワラ巻を行うか、白塗剤を塗布（地際から接ぎ木部の上３０センチ程度まで）する。

◆剪定の留意事項について

１．若木の剪定は、できるだけ春に近づいてから実施する。
２．高密植（新わい化）樹のせん定について
　①樹勢が落ち着いていない樹は、枝を切るよりも誘引を主体に行う。
　②冬期の剪定については樹勢によって、行う。
　　※強い場合は、４月前後　※中程度～弱い場合は、冬季３月頃
　③成木になるまでは、二股三股の枝を積極的に残し、誘引を行い花芽（果実）が付くようにする。
　④太く（成木：２ｃｍ以上、若木：主幹の半分の太さ以上に）なった枝を除いて、下枝まで光が入るすっきりした樹にする。
　　※下枝は、地上部より９０ｃｍまでは切除する。
　⑤また、二股三股（上下左右）・側枝基部の立枝を除き、すっきりとした枝ぶりにする。

◆剪定講習会開催について

下記日程により、開催致しますので、都合の良い会場で受講下さい。
なお、剪定用具メーカー（アルス・マキタ・近正等）が、商品説明をする場合があります。

【篠ノ井支部管内】

開催日	曜	集合時間	集合場所	担当
令和７年 １月１４日	火	午前　９：３０	有旅公民館前	徳武・寺澤
		午前１１：００	柳沢公民館前	徳武・寺澤
		午後　１：３０	塩崎第２集荷所集合（場所は希望者のところへ移動）	外谷
１月１５日	水	午前　９：３０	会場:福島宏之様園（瀬原田） 品種:シナノリップ・ふじ 講師:長野農業農村支援センター	徳武・寺澤
		午後　１：３０	五明公民館前	徳武・寺澤

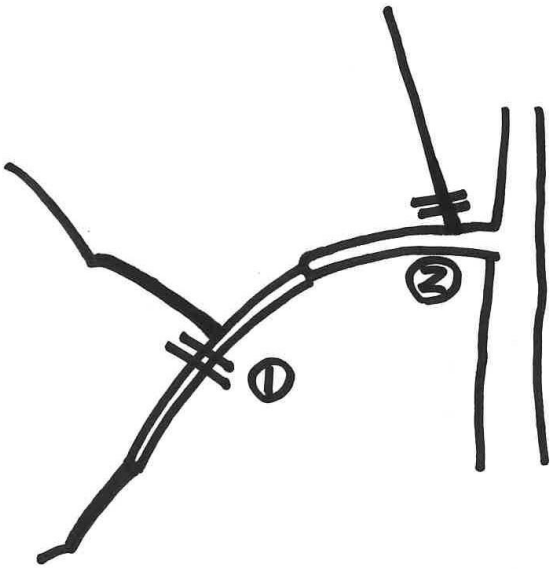
【長野南支部管内】

開催日	曜	集合時間	集合場所	担当
１月１４日	火	午前１０：００	中真島中央道 わい性樹　（秋映・シナノゴールド・シナノスイート）	根津
		午後　２：００	中島久宰子様宅裏（川　合）	根津
１月１５日	水	午後　２：００	小林隆雄様園（梵　天） （秋映・シナノゴールド・スイート）	根津
１月２０日	月	午前　９：３０	小林　英一様園（御　厨） 果樹研究会川中島支会共催	松橋

【若穂支部管内】

開催日	曜	集合時間	集合場所	担当
１月１４日	火	午前１０：００	町川田公民館前	松沢
		午後　１：３０	赤野田公民館前	松沢
１月１５日	水	午前１０：００	山新田公民館前	松澤
		午後　１：３０	若穂果実流通センター前	松沢

◆シナノリップのせん定のポイント



「ふじのせん定と同じにしない！」ふじは垂れた枝を作るが、早生品種は立った枝を作る。
骨格となる枝は４５度から６０度の角度で伸ばす。水平にすると先端が伸びなくなる。
果実が付き始めると樹勢が弱くなり枝の伸びがとぼるので着果量が増えない。
特に垂れ枝となって弱った枝は花芽が付きにくい。
更に玉伸びしない。また熟期も遅い。
切り戻しせん定を基本とし強めに伸びるようにする。
ふじとは逆のせん定になる。
枝が垂れて先端が伸びなくなってきたら更新枝に切り替えていく。図の①
よって背側から出た枝は更新枝として残しておく。
ただし側枝の基部から出た枝は強くなりすぎるため使えないので徒長枝として切る。図の②

◆腐らん病対策について （重要）

腐らん病の発生が目立っています。地域的に蔓延すると大きな被害になることが予想されます。一丸となって対策を徹底し、腐らん病の増加を防ぎましょう。また、削った後は必ず保護剤を塗布しましょう。

１．腐らん病とは

カビ（糸状菌）による病気です。特徴は以下の２つ。

１）主な感染部位は傷口

自然条件で起きる凍害や風による枝折れのほか、管理作業で発生する摘果や収穫時の果台痕、せん定痕など。

２）伝搬を担う胞子は一年中飛散

傷ができるせん定後、摘果後、収穫後が主な感染時期＝「重点的な対策が必要な時期」

２．なぜ、今増えているのか

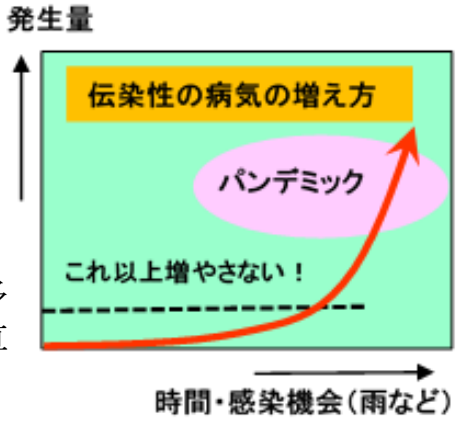
以下の点が増加に影響している可能性あり。

１）病勢進展が早く、重篤化しやすい「わい化栽培」の増加。

２）せん定時期が早まっている。

３）「ふじ」は摘果後の果台が脱落しにくく、枝腐らんに進展しやすい。

４）りんご生産の大規模化や高齢化が進み、対策が徹底できない。



伝染性の病気なので、何らかのきっかけで増加傾向になると、多くの伝染源が生み出され、さらに多くの発生を引き起す。病気は「直線的」ではなく「指数的」に増える。

増加を実感できる状態は大きな波が押し寄せているとき。

新型コロナ感染症で経験したように、対策を強化しないと波は次々と大きくなり、被害も大きくなる。

今が手を打つべき時です！

（引用：長野農業農村支援センター～りんご生産者の皆様へ～）

長野農業農村支援センターで、有効な防除対策の一つである「樹皮の削り取り」動画を作成しました。この動画を参考にしていただき、処置を実施しましょう。https://youtu.be/9LLtcCQ3Tvc

腐らん病に特効薬はありません。地域一丸となった「伝染源の除去」が重要です。
潜伏期間が長いため、対策の効果を実感できるのは２～３年後です。
地域のりんごを守るため、根気強い「腐らん病対策」をお願いします。